
ドラえもんがいない一週間

春崎やよい

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラえもんがいない一週間

【Zコード】

Z2112E

【作者名】

春崎やよい

【あらすじ】

ドラえもんが一週間家を留守にすることになった。のび太は、そのことを知っていたが、まさかドラえもんズがのびたのところにくることになることは知られていなかつたようだ。ドラえもんがいない一週間が始まった。短編なんだけど、最初しか書かれていないとこの寂しさ・・・予告だけ・・・連載始まります!!!

練馬区

野比家2階 のび太の部屋

のび太の部屋で一緒に暮らしている猫型ロボットが住んでいる。それは、二十一世紀からのび太の子孫セワシに置いてかれた。

そして今、ここに新しい仲間が増えることとなる

机ががたがた振るえ机が開かれた

「あー、ドラえもんいないのか？せっかく遊びに来たつて言つの
・
・
・」

彼こそドラえもんの友達、ドラ・ザ・ザ・キッド。

肩を落とし、残念そうな顔をしていると扉が開かれた

「君誰？」

のび太とキッドが出合つた……

はじめり のび太とキッド

「俺はドラえもんの友達キッド。ドラ・ザ・キッドだーよりしくな

キッドは帽子のふちに触れて血口紹介をした。

「僕はのび太。よりしく」

すぐにのび太とキッドは、打ち解けた。

のび太は、キッドにいろいろ質問した。

何処から来たかとか、ドラえもんズのことまでも

一時間くらい話をしていると玄関の呼び鈴が鳴った

「いめんね」

のび太は階段を駆け下りて玄関を開けた

そこにはのび太の友達、ジャイアンとスネ夫がいた。一人の後ろには、しづかちゃんもいた。

「あれ?どうしたの?」

「のび太、お前野球に来いっていつて何時間経つたと思つて?」

「あ、忘れてた!」

そり、学校を出るときジャイアンに「野球やるから来いよー」と声を掛けられていたのだ。それを今まで、のび太は忘れていたと言つ。恐るべきのび太!

「『じめん』話をしているのに夢中になつて忘れていたよ」

「全くのび太は・・・」

スネ夫は、呆れ顔になつていて。しづかちゃんは驚いたと言ひ顔になつていた。

「おーい、のび太！まだか？」

上からキッドが待ちきれんばかりに降りてきた

のび太は階段のほうに顔を向けた。

「『じめん、キッド。友達と話しててさ』

ジャイアンたちもキッドを見やる。

キッドもジャイアンに気がついたようだ

「のび太、誰？ドリームくんに似てているけど・・・」

ジャイアンがのび太に聞いた

「キッドだよ。ドリームくんの友達」

のび太は分かりやすく伝えた。

「へえ、ドリちゃんのお友達。私、静。よろしくね」

「俺は剛田 武。ジャイアンって呼んでくれ」

「僕はスネ夫」

「ほう、ドライエモンがいつも悩みの種であーるか」

何処から現れたのか、ドライエンドがキッドの横にいた
のび太びっくりしている。

「ドライエンド。ドライエモンズの仲間だ。ドライエモンと俺とドライエンドを含め七人仲間がいるんだ。」

「へえ、そつなんだ。」

スネ夫が言った。

もちろん、のび太は知っている。さつきキッドから聞いたから

「君がドライエンド。よろしくね」

「お主がのび太くんであーるか。よろしくであーる」

軽く紹介が済み、みんなはのび太の部屋に移動した。

廊下にいたんじや、帰つて来たとき母親が入れないと困るからだ。

のび太の部屋に来たら、のび太の部屋で寝そべつているロボットがいた。

彼の名は、ハルマタードーラー・シニアスタ中である

そして今此処に着たばかりのロボット、ドラゴンがマタドーラを起こそうと蹴りを入れてこようこうだった。

「ひらー・マタドーラ、人様の家で寝転がるなど、お行儀悪いですよー起きなさい！」

「分かつたよ」

マタドーラは起き上がり、キッドのほうをむいた。そう、入り口を「何だ、お前らも着ていたのかー良かつたぜ。ドラえもんが俺のところに来てさ、のび太のところに行ってくれって言うもんだからさびびつたぜ！」

「え、どらえもんが・・・なんで? どうして? たった一週間家に居ないだけなのに?」

のび太は今始めてそのことを知ったかのよつと言つた。（まあ、実際本人自身も知らされていなかつたのだが）

そのあとから、ドラニコフ、ドラワーニョもが来たことは言つまでもない。

(後書き)

これは最初だけ・・連載します！！

何かありましたら、評価してください！！

アイディアにしづか、だめ出しにしづか……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2112e/>

ドラえもんがいない一週間

2010年10月28日08時52分発行